

第4回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成27年3月25日（水） 15時～17時

場 所：秋田市役所研修棟第1研修室

委員の定数：13人

出席委員：12人

1 開会

2 議事

(1) 秋田市エイジフレンドリー指標設定について（案）

資料1、2、2-1、3をもとに、事務局から説明を行った。

委員	長	ただいま事務局からエイジフレンドリー指標設定について説明いただいたが、意見はないか。 資料2の3ページ、委員から出された「秋田市で安心して年齢を重ねることができるか」についての考え方であるが、委員から補足があればお願いしたい。
委員	員	資料にあるように、来年度第2群のところで検討いただきたい。
委員	長	次に、資料2の4ページ、委員から出された「指標のレベル」の中の「中軸指標」の表記について、委員から意見をお願いしたい。
委員	員	資料1の8ページ、1（4）個別指標の設定の説明の2行目は「事業毎の目標指数（指標）を設定しております」とし、次の「これが小指標です」を削除した方がよい。3行目は「その他、企業、事業者、市民、民間団体などによる個別の取組指標が必要な場合には、…」としてはどうか。 秋田市の取組が全国のモデルとなるのであれば、慎重に議論すべきである。 「補助指標」であるが、市民にとっては身近で、具体的な数字が出てくるため、指標としては有効である。そう考えると「補助」という言葉は適切か。例えば「行動指標」にしてはどうか。 また、全てを「〇〇指標」と4文字に統一してもよいのではないか。
委員	長	委員からは、ユニークな発案をお願いしたい。 中間報告書をどういった層に読んでもらうのか、学術的なものにするのか、民間企業・団体に読んでもらうのか、一般市民対象なのかによって、表現が違ってくるだろう。
委員	員	委員からの意見への対応を見ると少々敏感に反応しすぎたのではないかと感じた。それぞれの言葉が持つ意味を考え、対象を考えることが重要である。

- 報告書の言葉や指標の表し方は、行政でよく使われている表現であれば、それで差し支えないのではないか。
- 委員 中指標を使うのであれば、大・中・小だろうか。今すぐ、ここで適切な言葉が思い浮かばないというのが正直な意見だ。
ターゲットは市民だと思うので、わかりやすい言葉がよいだろう。
- 委員 基幹指標の次であれば、例えば準基幹指標だろうか。
- 委員 全体的に感じたことだが、指標を見せられた時に、じっくりこない。
WHOの指標に準じて秋田市の独自性を盛り込んだ指標を設定するのであれば、この指標では、秋田の地域性、秋田らしさが見えてこない。秋田市の地域性を盛り込むことは必要ではないか。
- 委員 中指標や個別指標は理解できるが、基幹指標は必要なのか。そして、基幹指標も評価する必要があるのだろうか。
- 委員 自然発生的なものが地域性を生むだろう。現段階ではゆるいものにしておき、市民の動きとすり合わせていきながら、自然発生的な指標にするとよいのではないか。例えば、「～的」という指標もよいのではないか。
- 委員 報告書は行政の言葉で市民にはわかりにくい。基本理念はわかりやすいが、基幹指標、中指標、個別指標となると複雑になってわかりにくい。誰が見ても理解できる言葉にしてほしい。
- 委員長 ここまでは報告書を市民が見るという想定で議論が進んでいるが、事務局としてはどう考えているか。
- 事務局 庁内で行われている個別の事業、例えば道路の舗装率が何パーセントになったかということを示しても、エイジフレンドリー度が上がったかどうか市民は実感しにくいいため、今回新たに指標を設定するものである。市民にわかりやすい指標を目指し、アウトカム指標を積極的に活用していきたい。
市独自の指標を設定するまでの過程や考え方、方向性をまとめたものが中間報告書である。
中間報告書は成案後公開するが、御意見を伺って、指標を活用する時は、市民がわかりやすいよう概要版を作る必要があると感じた。その際、報告書と概要版では言葉が統一されてなければいけないだろう。
指標の呼び方については、引き続き検討していきたい。
- 委員 基幹指標ではなく基本指標ではいけないのか、中間指標はどうか。わかりやすい言葉はあるだろう。中指標をやめて、補助指標にしぼる方がわかりやすいのではないか。「基幹」という言

		葉は理解に苦しむ。	
委	員	私は現場で、高齢者にやさしい社会をめざして活動している。こうした報告書は大切だが、机上の理論ではなく、現場の課題に目を向ける必要がある。	
委	員	この会議は行動計画推進委員会であり、何をやるかを議論する場ではないだろうか。秋田市として具体的にいつ何をやるのか、アクションプログラムを議論すべきである。	
委	員	報告書は必要であり、行政の言葉で作ればよい。それよりも、どう行動するかということを議論すべきである。	
委	員	3月6日号の「広報あきた」に、秋田市の当初予算の概要が載っており、エイジフレンドリーシティの実現に6億7千万円の予算が計上されているとあった。エイジフレンドリーシティの取り組みを始めて5、6年経つが、エイジフレンドリーシティは成長戦略のポイントであり、これだけの公金を使って具体的に何をやっているのかと市民は思うだろう。目に見える形で成果を上げて、市民が実感できるように考えていかなければならないだろう。	
委	員	具体的な取り組みとしては、高齢者コインバス事業だろう。コインバスのような大きな事業を打ち上げて、次に何をやればよいかということを議論していけばよい。	
事	務	局	エイジフレンドリーの取り組みが目に見えづらいという御意見は認識はしている。エイジフレンドリーシティ推進担当で、あらゆる分野の事業を直接企画し事業化することはできない。 エイジフレンドリーシティの考え方を庁内や地域全体に広め、各主体による取組が広まるようにする必要があり、そのために庁内の調整、庁外の機関や市民との連携を調整していく部署である。 新規事業を次々に打ち上げていくことは、財政的にも限りがあり、持続可能なものになるとは限らない。
委	員	いままで委員から出された具体的な取り組みというのは補助指標にあたり、ここは大事にしていきたい。繰り返すが、基幹指標は削除した方がよいと考える。 こういう議論を重ねないと目次づくりができない。目次がないと、方向性が定まらない。私たちは目次づくりに参加しているという認識がよいのではないか。	
委	員	基幹指標は目的で、次に方針があって、個別指標は手段という位置付けではないか。手段が具体的な取り組みになるのだろう。	
委	員	委員が提案した大中小にカッコ書きとして加えてはどうか。	
事	務	局	ツールとして市民にわかりやすい形で指標を設定するのであれ

		ば、市民にわかりやすく親しみやすい言葉をこれから事務局で検討したい。
		新しい施策を議論すべきだという意見に対しては、指標の活用をした上で、やるべきことや新たな取り組みの掘り起こしを議論していただきたい。
委 員		資料2の5ページ、「主要なキーワード」という表現であるが、キーワードの中に主要なという意味が含まれている。「主要な」を削除した方がよいのではないか。
委 員		あくまでも一つの例、一つの切り口だという意味で提案した。「主要な」という言葉を削除して構わないが、「キーワードの例」などの表現にしていきたい。
委 員	長	指標に関して多くの意見を出していただいたので、事務局で参考にして再度検討いただきたい。

(2) 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について（平成26年度末実績見込み）について

資料4、5をもとに、事務局から説明を行った。

委 員	長	事務局から説明をいただいたが、質問・意見はないか。
委 員		これらの事業はどういった形で行われているのか。公募型で事業化されたものなのか。
事 務 局		行政で行っている事業の中で、エイジフレンドリーシティに関わるものを行動計画策定の際にあげたものである。

(3) その他について

委 員	長	今年度の会議は本日が最後である。委員からその他として意見があるか。
委 員		社会状況の変化として人口減少と少子高齢化が進むと、余暇を謳歌するスタイルはなくなるだろう。 いまの社会は輸出強化型の地域社会で、施策があって、それを事業化してお金がつく仕組みである。しかし、これからはエイジフレンドリーも含めて、事業を公募して必要予算を支給するスタイルになるだろう。そうなった時に、評価軸も計画と成果の評価となる。計画は直接（短期的）な内容と間接的（長期的）な内容にわけられる。成果については、量と質が評価されるが、質の評価指標が難しいと感じる。間接的（長期的）な内容が重要で、そ

		<p>の中にはソフト的な内容とハード的な内容が含まれる。公募して評価することをあらかじめ意識した指標づくりが良いのではないか。</p> <p>それから、雇用スタイルとして高齢者のアルバイト化を支援し、ゆるいお金の回し方も検討するとよいだろう。</p>
委 員	員	<p>理念も大切だが、先ほどから議論されている具体的な事業や課題などについて、今後この場で議論していくとの理解でよいか。</p>
事 務 局	局	<p>現在の行動計画を進め、評価をした上で、次期行動計画を策定していく。その中で新しい施策の方向性について検討していただきたい。</p> <p>具体的な事業化までは、現実的には予算の制限等もあり、なかなか難しい。具体的な施策をもむのではなく、方向性についての議論の場にしてほしい。実現可能な施策について議論していくことは可能である。</p>
委 員	員	<p>報告書の対象や議論のレベルを明確に示してもらおうと議論がしやすい。業界用語を多用すると、市民にわかりにくい。</p>
委 員	員	<p>エイジフレンドリーシティに関して市民の関心は高まっている。市民に成果を示す時期にきているのではないか。</p> <p>計画を具体化するにあたり、人・モノ・金・情報の制約があることは理解できる。しかし、知恵を出し、他の経営資源を上手に活用し、その上で行政はどこに立つべきなのか、何をすべきなのか、どこまでやるべきなのか、その他のことは誰に担ってもらえるのか、その管理はどうするのかについての組み立てをあまり時間をかけずに取り組んでもらいたい。</p> <p>立派なプランや構想を立てても、市民に理解してもらわないと意味がない。スピード感を持ち、具体的な成果をあげ、それを情報提供することが大切である。</p>
委 員 長	長	<p>エイジフレンドリーシティに関して、言葉は浸透してきたが、次は具体的な中身に期待する部分も大きくなってきているだろう。</p> <p>スピード感をもって、評価をしながら、計画を立てながら同時に進めてほしい。</p>

事務連絡

今年度の委員会を終了する。来年度第1回の委員会は、6月下旬から7月を予定している。

3 閉会